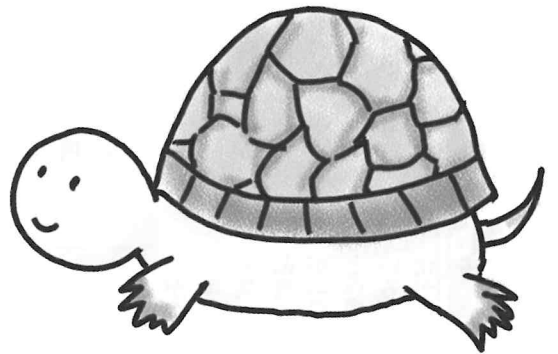
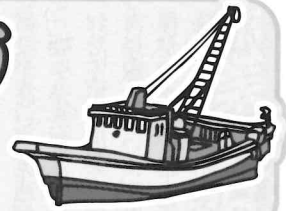




# 何でも魚<sup>うお</sup>ツチング

## No.84 『 珍しいカメさん 庄内浜にご来遊!! 』 =どこから来たの??=



### ウミガメ漂着する

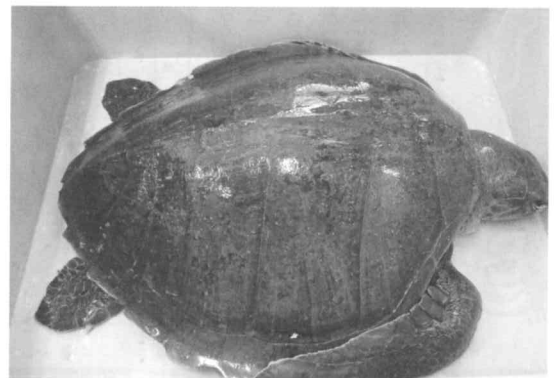
1月下旬のシケの翌日の朝、漁業者の方から砂浜に漂着したウミガメの報告を受けました。(報告をありがとうございました。)

### カメの種類は?

当初は、顎の形からアカウミガメと判断していましたが、念のため、ウミガメを研究している名古屋港水族館に問い合わせしてみました。すると、なんと!「ヒメウミガメ」というかなり珍しい種類であることがわかりました。

さらに、ヒメウミガメについて調べたところ:

- ・ 熱帯海域を中心に分布する。背面はオリブ色。<sup>1)</sup>
- ・ 日本では稀に見つかるのみ。<sup>2)</sup>
- ・ メキシコの産卵場では増えている。東南アジアではほぼ絶滅状態。<sup>3)</sup>



ヒメウミガメ(普段扱っている魚と勝手は違いますが、測定したところ、体重18kg、甲羅の長さ52cmでした。)

・ 分布範囲や回遊経路はよくわかっていない。<sup>3)</sup>

・ アカウミガメとともに絶滅危惧種に指定されている。<sup>4)</sup>

ヒメウミガメの生体は未知の部分が多いようですが、そもそも、このカメさんはどこから来たのでしょうか? 太平洋から? それともインド洋から? また、どこを通過して日本海に入ったのでしょうか? 対馬暖流に乗って九州方面からやってきたのか? あるいは、津軽海峡の西から東へ流れる潮流をさかのぼって(ちよつと厳しそうですが)南下してきたのか?

将来、分析技術や研究が進めば、漂着生物の由来や移動経路もわかるようになるかも知れませんが、カメの故郷やどうして暖かい熱帯の海から真冬の日本海にやってきたのかは、今のところ、カメのみぞ知るといふことでしょう。

### ユニークな産卵の習性

・ ヒメウミガメは、コスタリカの太平洋岸やインド洋で集団で昼間に産卵し、このような集団産卵はアリバダ(スペイン語で「兆し」を意味する)と呼ばれ、本種とケンプヒメウミガメだけの特徴である。<sup>5)</sup>

・ アリバダが起こるのは、世界でも、メキシコで二ヶ所、コスタリカで二ヶ所、ニカラグアで二ヶ所、パナマとインドで一箇所ずつの計八箇所海岸だけである。アリバダの語源はスペイン語の「arribar(到着する)」である。<sup>4)</sup>

浦島太郎を竜宮城へ連れていったのはウミガメ、海のロマンを感じるヒメウミガメの漂着でしたが、集団産卵というユニークな習性を持つカメでもありました。集団産卵IIアリバダII「兆し」又は「到着」とのこと。庄内浜や漁業にとっても吉兆のカメの到着ではないかと想っています。 水産試験場 副場長 平野 央

#### 出典

- 1 日本ウミガメ協議会ホームページ <http://www.umigame.org/>
- 2 環境省 串本海域公園ホームページ
- 3 水産庁・水産総合研究センターホームページ  
平成19年度国際漁業資源の現況
- 4 ウィキペディア <http://ja.Wikipedia.org/>
- 5 日本ウミガメ協議会ホームページ <http://www.umigame.org/>  
(2014年1月時点)